

研究テーマ	作品の良さを感じ取り、自分の言葉で良さを表現できる鑑賞指導の工夫 ～小学4年「作品の良さを味わおう」～友達作品から～の実践を通して～
-------	---

龍ヶ崎市立長山小学校 教諭 北澤 隆 一

I 研究テーマについて

小学校学習指導要領の目標に「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」とある。さらに、「表現及び鑑賞の活動」は、図画工作科の学習活動のことを示しており、児童が自分の思いを造形的に表す表現と、作品などから良さや美しさを感じ取り見方を深める鑑賞の二つの活動によって行われるとある。また、「感性を働かせながら」は、図画工作科の学習において、児童の感覚や感じ方などを一層重視することを明確にするために示したものとあり、図画工作科の活動を明確にしている。特に、「感性」は、様々な対象や事象を心に感じ取るはたらきであるとともに、知性と一体化して創造性を育む重要なものとしている。

現在、私は、知的障がい特別支援学級(以下ひまわり学級)を担当しており、2名の在籍児童を指導している。ひまわり学級では、保護者の要望もあり、国語・算数科の取り出し指導という形で指導しており、一日のほとんどが交流学級での学習・生活であり、ひまわり学級で特別に、図画工作の時間を設けているわけではなく、交流学級の担任からの要請があった場合(工作等で、のこぎりや金槌・彫刻刀などを使う)に、T2として危険のないように補佐する程度であった。

このような実情の中、この図画工作科の授業実践研究を通じて、交流学級における特別支援学級児童への関わり方という点を見直し、鑑賞活動における指導の実際についてまとめることとした。

II 研究の実際

1 題材名 作品の良さを味わおう～友達作品から～

2 題材の目標

- 作品の良さや面白さについて、主体的に見たり感じ取ったりすることができる。

(関心・意欲・態度)

- 身近にある作品などから、感性を働かせながら、対象の見方や感じ方を広げることができる。

(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 児童の実態

児童Aは、4年生で、ひまわり学級に在籍して、2年あまりである。図工に関しては、全般的にきらいではないが、絵を描いたり、工作をしたりという時に、想像力が働かなく、何を描いたり、作ったり



してよいか分からず、固まってしまうことがある。上の絵は、左側が昨年度(3年生時)、右側が今年度(4年生時)に描いたものである。

今年度、交流学級担任から、作業時間2時間のうち、ほとんどが、画用紙とのにらめっこになってしまっていて、何をどこへどのように描いてよいか分からずに終わってしまったという話があった。その後は、交流学級担任から声かけをしてもらうことを伝えたこともあり、期日内に終わらせることができた。元々絵を描くことに苦手意識をもち、自分らしさや絵の良さに気付かずになっていたこともあり、県芸術祭の出品作品を鑑賞することで、絵画への興味・関心をもたせたいと考えた。

(2) 題材観

県芸術祭に出品された市内の友達の作品に触れさせることで、同年代の友達の作品ということで、作品を身近に感じ、作品の良さや工夫したことが実感としてとらえやすいと考えた。さらに、作品を一つに絞らずに、自分の感性を働かせながら、自分のよいと思った作品を選びやすいと考えた。

(3) 指導観

同年代の子供たちの多くの作品に触れることで、作品には、いろいろな良さや面白さがあることに気付かせたい。また、人によって感じ方が違ったり、同じだったりすることにも気付かせたい。友だちとの意見交換・情報交換などを通して、自分では感じなかったことにも、共感できる感性をもち、自分の感性として取り入れることができるように支援・助言していく。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	鑑賞の能力
作品の良さや面白さを、進んで見つけようとする。 自分の考えと友達の考えを比べながら、友達の考えの良さを取り入れようとしている。	作品の良さや面白さを進んで見つけ、感性を働かせながら、作品の見方や感じ方を広げることができる。

5 指導と評価の計画（1時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
1	友達の絵画作品を鑑賞する。	・作品の良さや面白さを見つけることができる。 関【観察】
		・自分の気に入った作品・好きな作品を選び、友達と情報交換しながら、作品の良さを見つけることができる。 関【観察】
		・作品に対する自分なりに見方や感じ方を広げることができる。 鑑【ワークシート】

6 指導の実際

(1) 授業の流れと時間配分

時間	めあて	形態	内容
2分	つかむ	個人	本時の学習課題をつかむ。
10分	見る	個人 友達と	全体的に作品を見ながら、良さや面白さが感じられる作品を見る。
10分	選ぶ	個人	お気に入りの作品を選ぶ。 ・着色のきれいなもの ・写真を見ているように感じるもの

			・形や構成のよいもの
15分	考える	個人	作品の良さや面白さを見つけ、まとめる。
8分	伝え合う 広げる	全体	自分の思いや考えを説明したり、友だちの意見を聞いた りする。

(2) 授業の展開

◇準備・資料

ワークシート 友達の商品 (県展出品作品)

◇展開

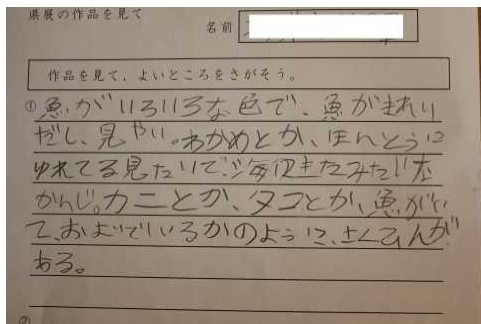
学 習 活 動 ・ 内 容	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <div data-bbox="245 645 740 734" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>県展に出品された作品を見て、よいところをさがそう。</p> </div> <p>(1) 県展出品作品について知る。</p> <p>(2) 作品のよさについて知る。</p> <div data-bbox="285 826 713 1111"> </div> <div data-bbox="355 1120 614 1503"> </div> <p>2 作品を鑑賞する。</p> <p>(1) 自分で良いと思った作品や好きな作品を選ぶ。</p> <div data-bbox="240 1668 727 1991"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県展に出品された作品の紹介をして、いろいろな絵があることを知らせる。 ・ 作者の思いや願いが作品から感じられることを伝え、また、見る人も作品から受ける印象も様々で、それぞれの作品が見る人の心に残るものであることも伝える。 ・ 作品のよさについては、着色がきれいだったり、楽しさが伝わってくるものだったり、動きが伝わってくるものだったり、自分がどんなことでもいいから、作品から伝わってくるものがある作品であることを知らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ まずは、作品をじっくり鑑賞させる。 ・ 鑑賞する中で、何気ないつぶやきや周りの友達の言葉かけなどにも耳を傾けるように助言する。 ・ 「この絵はすごいね。」など、抽象的な言葉が出てきたときは、どんなところがすごいのか、なぜそう思ったのか話し合いのチャンスとし、より具体的なことが出るように支援していく。

(2) 選んだ作品の良さについて考える。

3 選んだ作品について、感想を書く。



4 感想を発表する。



・自分の思ったことや友達をつぶやきなど、作品のよさについて感想が書けるように、十分な時間を与えるようにする。

評価（関心・意欲・態度）

作品のよさや面白さを意欲的に見つけようとしているか。 【観察】

・自分の感想を、具体的にどんなところがよかったのか、説明できるようにする。

評価（鑑賞の能力）

作品に対する自分なりの見方や感じ方を広げることができたか。

【ワークシート】

III 研究の成果と課題

1 成果

初めの5分間は、思い思いに絵を見て、自分のお気に入りの絵を見つける場面とした。そして、お気に入りの絵について、選んだ理由や良いと思ったことを書く時間を設定した。しかし、Aは、どの絵を選んでよいか分からず、初めの5分間では、お気に入りの絵を見つけることができず、15分ぐらい絵を見続けていた。そして、おもむろに「一つを選ばなければいけないの」とたずねてきたので、「たくさんあるなら、お気に入りの絵をたくさん選んでもいいよ」と返したら、「この絵は、色がきれいだね」、「本物みたいだね」、「笑顔が素敵だね」等々たくさんの言葉が出てきた。「今、A君が言ったことをそのまま鑑賞カードに書けばいいんだよ」と助言すると、自分の考えた感想を書くことができた。誤字・脱字はあるが、「魚がいろいろな色で、魚がきれいだし、見やすい。わかめとか、ほんとうにゆれてるみたいで、海にきたみたいなかんじ。カニとか、タコとか、魚がいて、およいでいるかのようにさくひんがある。」と、素直に自分の感じたことを表現している。もっと、他の作品についても書きたいことがあり、作品鑑賞への意欲が高まった。

2 課題

小学校学習指導要領解説・図画工作編に鑑賞について、次のように書かれている。

- ① 視覚だけでなく触覚や聴覚などの他の感覚を考慮する、児童が造形活動の中で自然に自分や友人の作品などを見ることも鑑賞としてとらえること。
- ② 指導の効果を高めるために鑑賞を独立して行う場合には、その必然性や児童の実態などを十分考慮し、児童一人一人が能動的な気持ちで鑑賞できるように配慮する必要がある。

③ 生活や文化などによる感じ方の違いにも配慮しながら、自分たちの伝統的な文化を大切にするとともに、諸外国の文化を尊重する態度を育てることも重要である。

このことを踏まえ、図画工作科における鑑賞指導は、児童の実態や発達段階を十分考慮し、造形活動の中にも、鑑賞活動を取り入れたり、普段の生活の中に、鑑賞できる場を設けたりすることが重要になってくる。特に、低学年などでは、作品には触れない、いたづらをしないなど、鑑賞するマナーについても指導の必要性を感じる。また、自分たちの伝統文化と諸外国の文化の違いについても理解させ、そこから生まれた文化を尊重する態度も育てなければいけない。そのためにも、学年の発達段階、児童の実態等を十分考慮した指導計画が必要になってくる。

※参考資料

小学校学習指導要領解説 図画工作編